

葬送と終活を考えるシンポジウム
～葬送にかかる費用と負担～



札幌市の火葬場・墓地の課題と取組 ～料金制度見直しなど～

札幌市保健福祉局 施設管理課
令和 6 年（2024年）7 月 6 日



目次



1. 葬送を取り巻く現状
2. 火葬場の現状と課題
3. 市営霊園の現状と課題
4. 課題解決に向けた取組
5. 運営計画に基づくこれまでの取組
6. 新たな火葬場使用料制度
7. 新たな霊園管理料制度
8. 今後のスケジュール



1. 葬送を取り巻く現状



年々少子高齢化が進み、超高齢社会が進展していくことに伴い、今後多くの方が寿命を迎える「多死社会」が訪れる



火葬場では・・・

混雑して火葬まで何日も待たされる

墓地では・・・

跡継ぎがないため、お墓が放置される

このような問題が
深刻化する懸念

対策が必要



2. 火葬場の現状と課題(整備状況)

山口斎場

【火葬炉数：29炉】

(平成18年～現在)



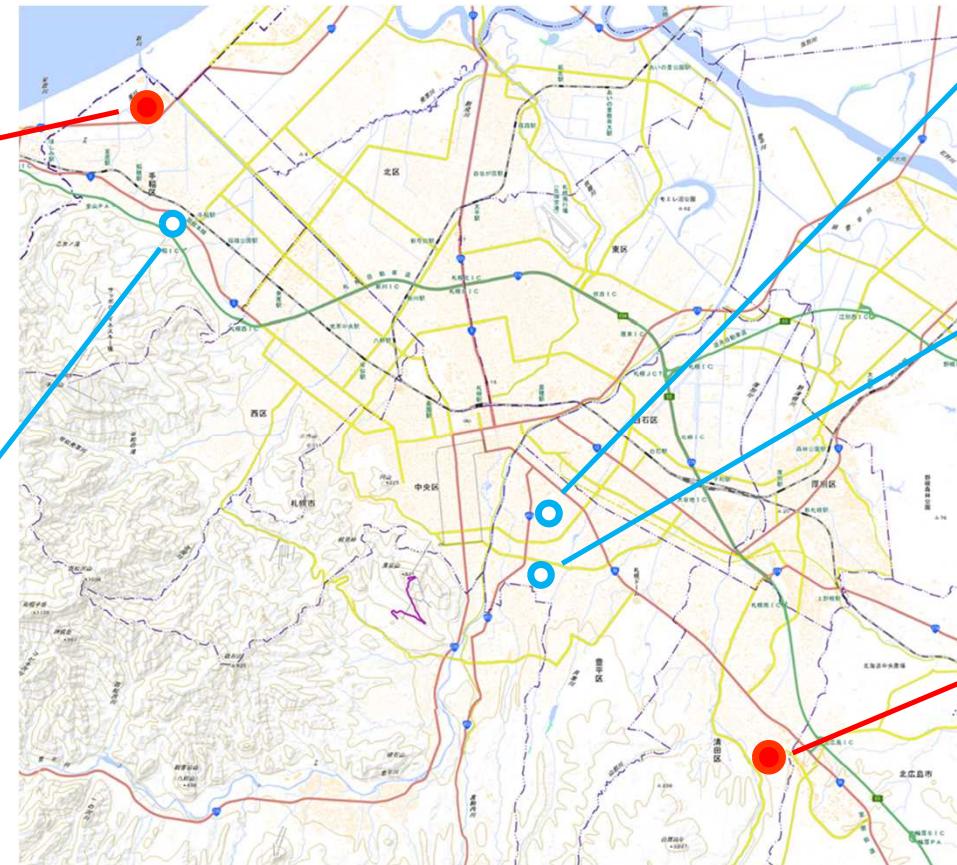
手稻火葬場

【火葬炉数：1炉】

(昭和18年～平成18年)



(写真：札幌市公文書館所蔵)



豊平火葬場

(明治20年～昭和19年)

平岸火葬場

【火葬炉数：15炉】

(昭和19年～昭和59年)



(写真：札幌市公文書館所蔵)

里塚斎場

【火葬炉数：30炉】

(昭和59年～現在)



2. 火葬場の現状と課題(状況変化)



◎ 市民火葬料無料化時(昭和50年)と現在の状況変化

	昭和50年度	約50年経過	令和5年度	
市内の火葬件数	約5,000人	約 5倍	約24,000人	1炉あたりの負担 が増え、維持管理 費が相対的に増加
火葬炉数	合計16炉	約3.7倍	合計59炉	
燃料	薪・石炭		灯油	
	環境配慮等のための設備の高度化により、電気使用量も大幅に増加するなど、 施設・設備の大きな変化に伴い無料化時と比べ運営経費が高額となっています			
火葬炉使用料(市民以外)	1,000円		49,000円	

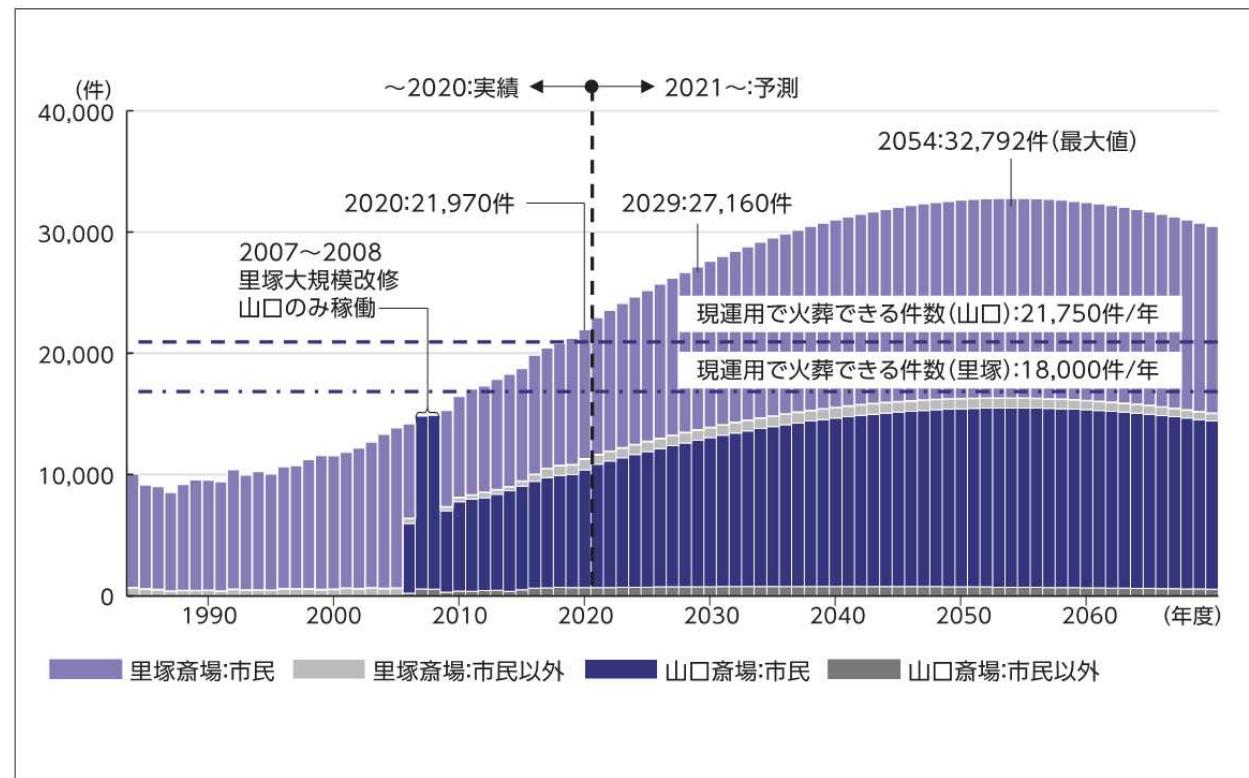


2. 火葬場の現状と課題(火葬件数の増加)



◎ 火葬件数の増加

- ・ 人口の多い世代が高齢になり、年間の死亡者数が増えることが見込まれる



2. 火葬場の現状と課題(施設面の課題)

◎ 里塚斎場の再整備と山口斎場の大規模改修

- ・里塚斎場は2034年以降に建替又は大規模改修が必要
- ・山口斎場は2036年以降に大規模改修が必要

◎ 混雑の深刻化

- ・特別控室使用率の低下により、待合ロビーの利用者が増え、ロビーが混雑

特別控室

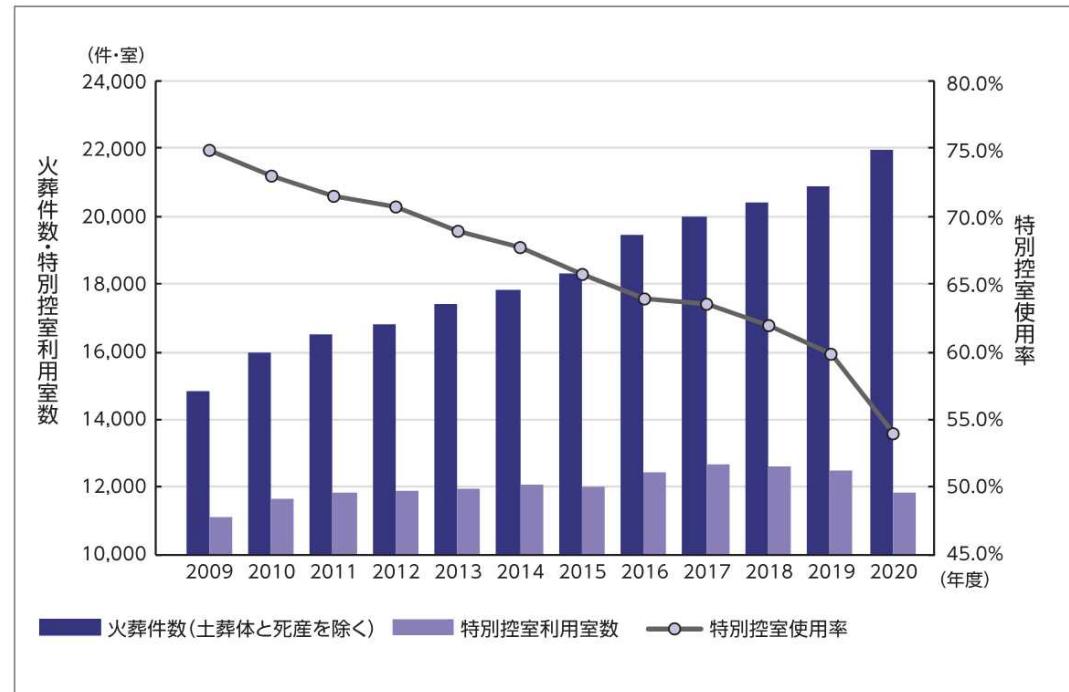


2. 火葬場の現状と課題(火葬場の収入傾向)



◎ 火葬場の収入傾向

- ・札幌市の火葬場の収入は、特別控室の利用料(23,000円)と市民以外の火葬炉使用料(49,000円)
- ・葬儀の小規模化などにより特別控室の利用が減り、収入が低迷



3. 市営霊園の現状と課題(概要)

平岸霊園

開設年：昭和16年
総区画数：12,580区画
土地面積：276,939m²（参考：中島公園236,295m²）



里塚霊園

開設年：昭和41年
総区画数：26,573区画
土地面積：661,997m²（参考：平岡公園663,200m²）



手稲平和霊園

開設年：昭和48年
総区画数：2,962区画
土地面積：78,696m²（参考：大通公園78,901m²）



3. 市営霊園の現状と課題(維持管理)



春彼岸に向けた構内の除雪



危険木の伐採



草刈



石垣等の修繕



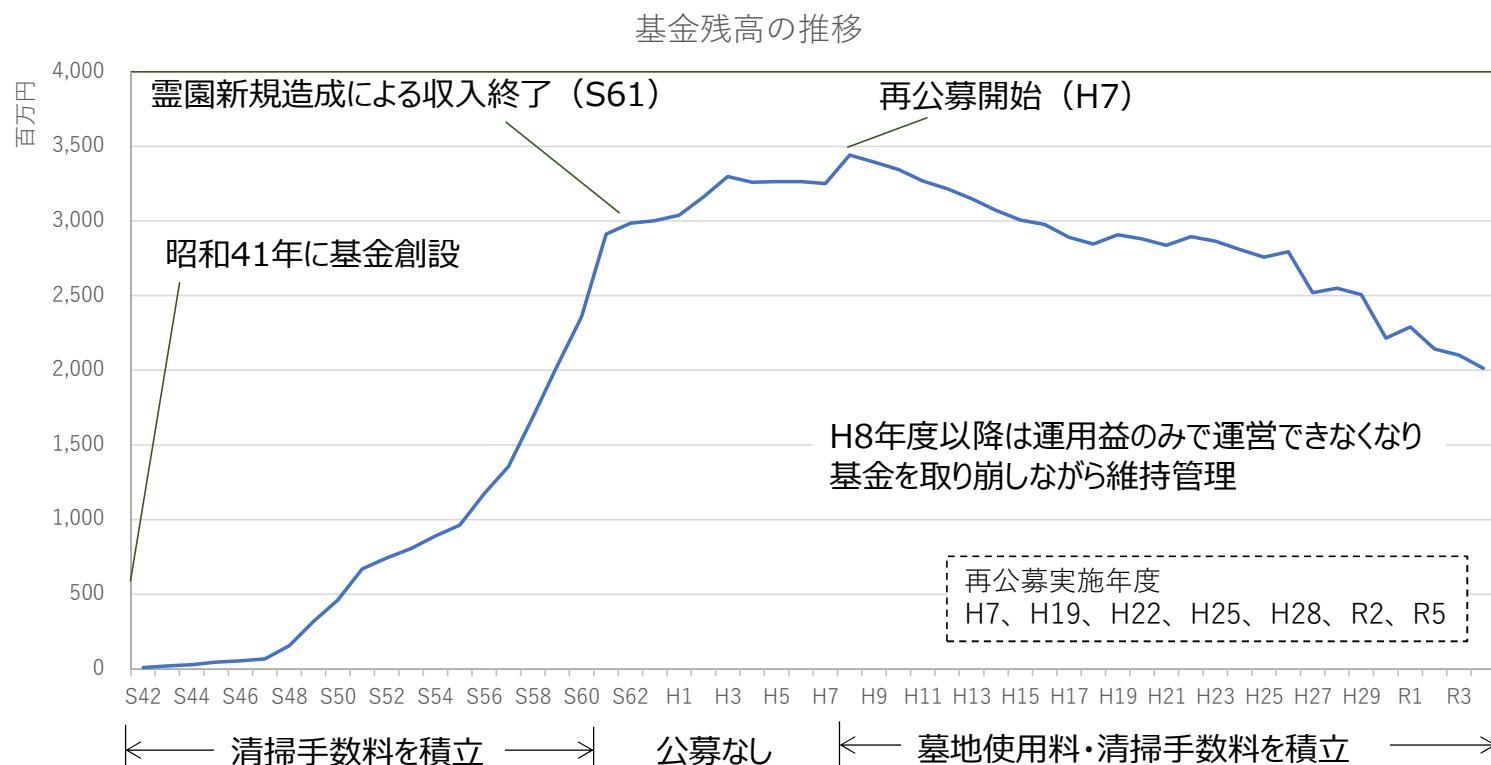
花壇植え込み



3. 市営霊園の現状と課題(霊園基金)



墓地の使用開始時に徴収した墓地使用料（永代）と清掃手数料（20年分）を基金に積み立て、資金運用により得た利益（運用益）を元手に霊園の維持管理を行っています



3. 市営霊園の現状と課題(老朽化)



市営の3霊園は開設から50年以上が経過しており、管理事務所や園路、階段、手すり、雨水樹等のさまざまな構築物の老朽化が進んでいます。また、バリアフリー化が進んでいないという問題もあります。H29年度の調査時点で、構築物の修繕や管理事務所の建替等に少なくとも約17億円を要する見込みです。



↑老朽化した階段

←手すりのない階段



↑里塚霊園管理事務所
(昭和46年建築)



バリアフリー化されてない入り口↑



3. 市営霊園の現状と課題(維持管理費)



現状、不具合が生じた場合に修繕する「事後保全」での対応が主となっていますが、施設の老朽化による修繕個所の増加や、樹木の繁茂、災害による倒木の伐採等の維持管理費用が増えてきています
安全かつ快適に墓参できるよう、「予防保全」やバリアフリー化など計画的に改修を進める必要があります

項目	説明	現状（主に事後保全）	参考：R6年度予算	10年前
運営管理費	草刈、清掃、除雪、お盆対応、光熱水費等の運営に係る経費	年間約8千万～1億円程度	約97百万円	→ 約88百万円
墓地整備費	樹木の伐採や園路の修繕等の整備に係る経費	年間約8千万～1億円程度	約79百万円	→ 約9百万円
人件費	霊園管理に係る職員費	年間約5千万円程度	約51百万円	

令和6年度の主な支出予定

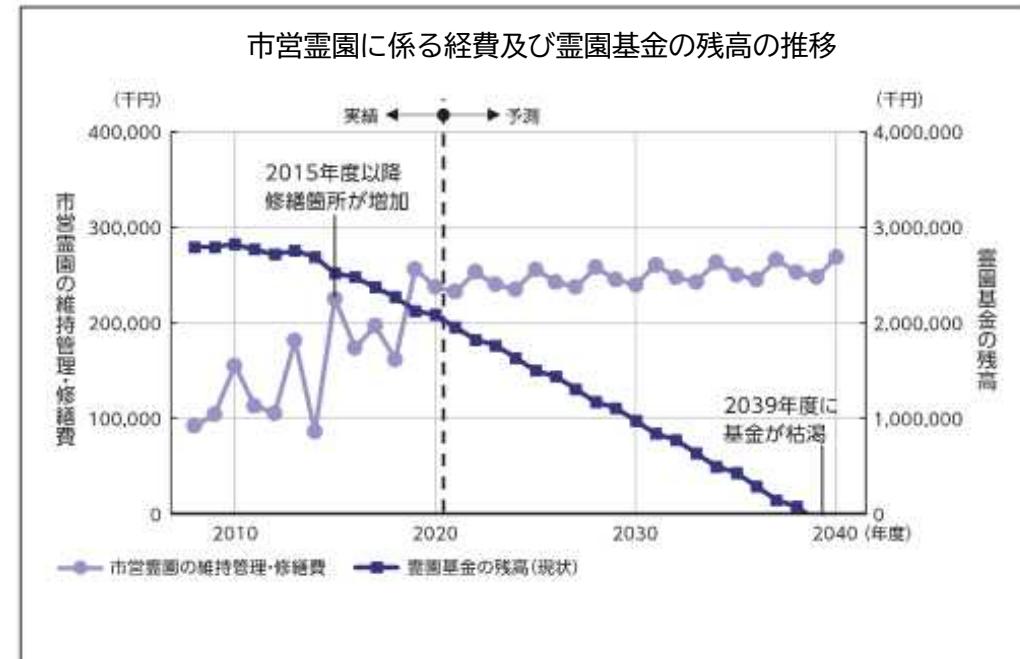
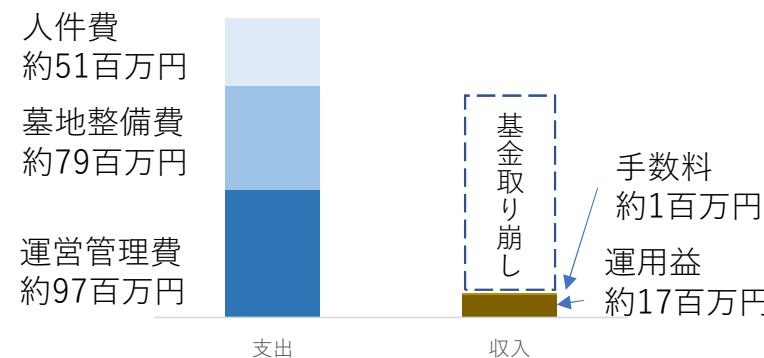


3. 市営霊園の現状と課題(基金残高の減少)



近年の低金利による運用益の減少や、老朽化による維持管理費の増加のため、原資である基金を取り崩しながら維持管理しています

【現状（R6年度予算）】



このままの水準で毎年の維持管理や修繕等を継続した場合、令和21年度（2039年度）には基金が枯渇する見通し



3. 市営霊園の現状と課題(無縁墓の増加)



現在の制度では、霊園使用者と定期的に連絡を取る機会がないため、無縁化に陥りやすく、無縁化が疑われる墓が増加（連絡先不明件数：約5千件）



- 少子高齢化や核家族化の進展に伴い、今後も無縁化が懸念される
- 承継者がいる場合は、承継手続きを促していく必要がある
- 承継者がいない場合は、円滑な墓じまいにつながる取組が必要



4. 課題解決に向けた取組(基本構想)



札幌市火葬場・墓地のあり方基本構想

~多死社会を不安なく迎えるために~



令和2年(2020年)3月
札幌市

今後訪れる「多死社会」に対応していくとともに、火葬やお墓のことを自分事として考えるきっかけとしていただきため、令和2年3月に策定

基本構想の策定にあたっては、専門的な立場や市民目線のご意見を聞くため、学識経験者や葬送関連事業者、公募市民などで構成する「札幌市斎場等あり方検討委員会」を設置し、協議をしていただきました

基本目標②

多死社会においても安定運営可能な火葬場を実現します

基本目標③

少子高齢社会に対応した持続可能な墓地を実現します

施策の方向性

- 遺族に寄り添った視点による火葬場運営を継続します
- 施設整備・運用改善の両面から最適な運営体制を構築します
- さっぽろ圏における効率的・安定的な火葬体制を検討します
- 火葬場の使用に係る費用負担のあり方を見直します

施策の方向性

- 事業者との協働により市民の墓地ニーズに対応します
- 市営霊園の無縁墓対策を進めます
- 安全で利用しやすい市営霊園へ改善します
- 市営霊園と旧設墓地の使用に係る費用負担のあり方を見直します



4. 課題解決に向けた取組(運営計画)



基本構想に基づき、火葬場・墓地の問題解決のため「札幌市火葬場・墓地に関する運営計画」を令和4年3月に策定し、取組を具体化

重点取組項目

【火葬場】

- 火葬場の友引開場
- 火葬場の予約システムの導入

【市営霊園】

- 市営霊園及び旧設墓地の無縁墓への対応
- 市営霊園の新たな管理料制度

基本構想・運営計画の策定にあたっては市民アンケートやパブリックコメントを実施して、市民のみなさまのご意見を伺いながら検討を進めてきました

運営計画の策定においても、学識経験者や葬送関連事業者、公募市民などで構成する「札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会」を設置し、協議していただいたほか、運営計画策定後の進捗に対してご意見をいただきたり、葬送に関する意識醸成を行っていただいております。



5. 運営計画に基づくこれまでの取組



【意識醸成】

- パネル展
- 出前講座・終活セミナー



【火葬場・墓地:重点項目】

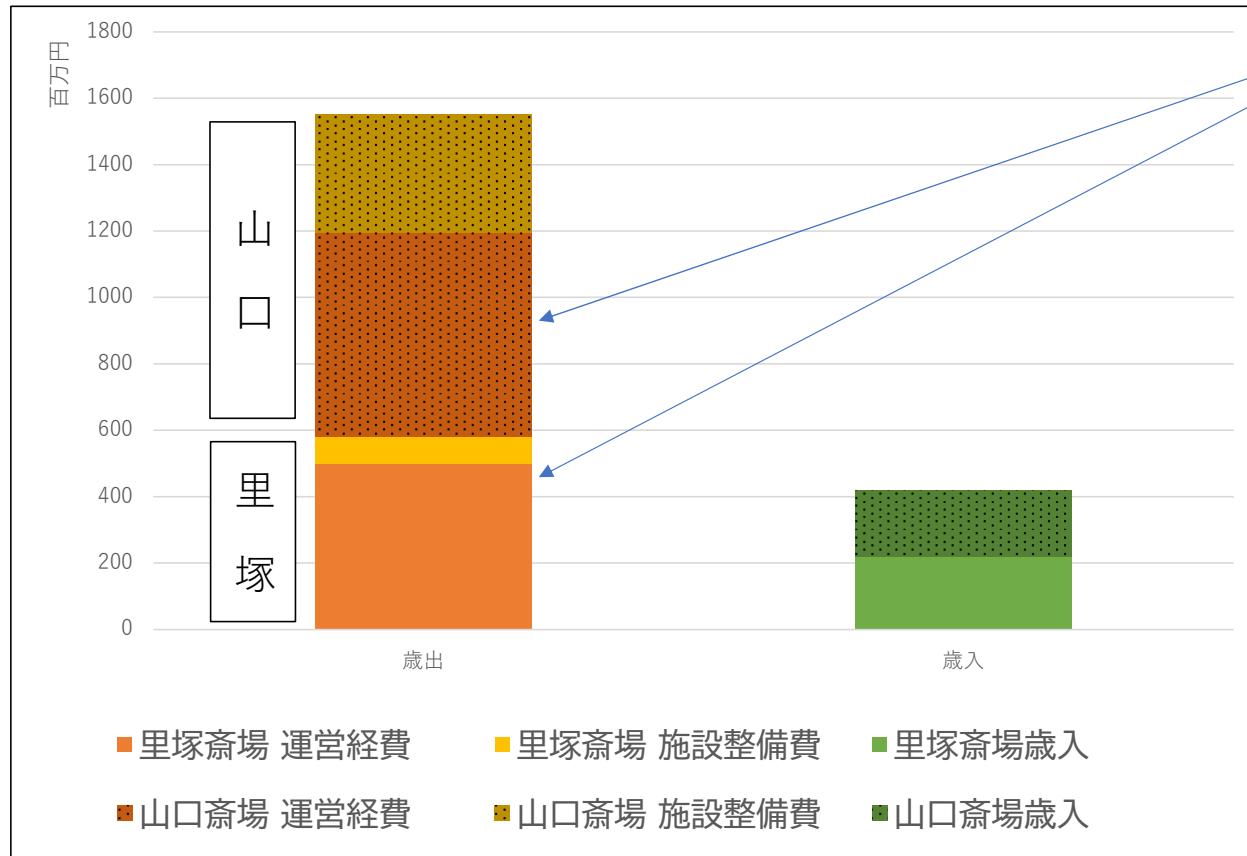
- 火葬場予約システムの稼働
- 無縁墓への対応（戸籍調査・看板設置）
- 葬送ワークショップ
- アンケート



6. 新たな火葬場使用料制度(収支の現状)



火葬場の運営に係る収支の現状（R4年度）



【主な支出】

燃料費（灯油等）：約1億2千万円

光熱水費：約1億3千万円

委託費（清掃・設備保守等）：約6億7千万円

人件費：約1億3千万円

トータル約10億円の収支差

運営経費だけでも収支差約7億円

市税等で不足分を負担

受益と負担の割合を見直し、市税等の投入額を削減

火葬場の安定的な運営に必要な財源確保

火葬料制度の見直しが必要



6. 新たな火葬場使用料制度(今後の方向性)



今後の方向性

市民の火葬料については、ランニングコスト（人件費・物件費）の一部をご負担いただく方向で検討します。

市民の特別控室使用料については、アンケート結果も踏まえて減額とする方向で検討します。

- これにより使用率が向上し、ゆったりと待ち時間を過ごしていただける環境が提供できるとともに、待合ロビーの混雑緩和にもつなげていきます。
なお、会葬者数により控室を使用しないケースや2室使用するケースもあるため、無料とはしない方向で検討します。



6. 新たな火葬場使用料制度(まとめ)



	現状（H18年度）
火葬料(市民以外)	49,000円 (火葬原価を全額 受益者負担)
火葬料(市民)	無料
特別控室使用料	23,000円



方向性

改定後（現段階の考え方）
人件費・物件費の上昇分を反映
一部負担 (ランニングコスト) 市民のみ減額の方向

【参考】料金を徴収している
他都市の状況（政令市）

金額範囲	
27,200円～100,000円	(19市)
5,000円～20,000円	(17市)
3,000円～6,000円	(9市)

市民火葬料無料：新潟市、浜松市

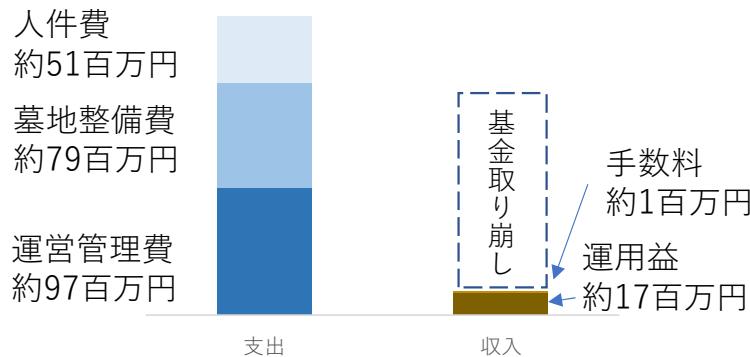
過度な負担とならないよう、他都市の状況や市民意見を踏まえながら検討



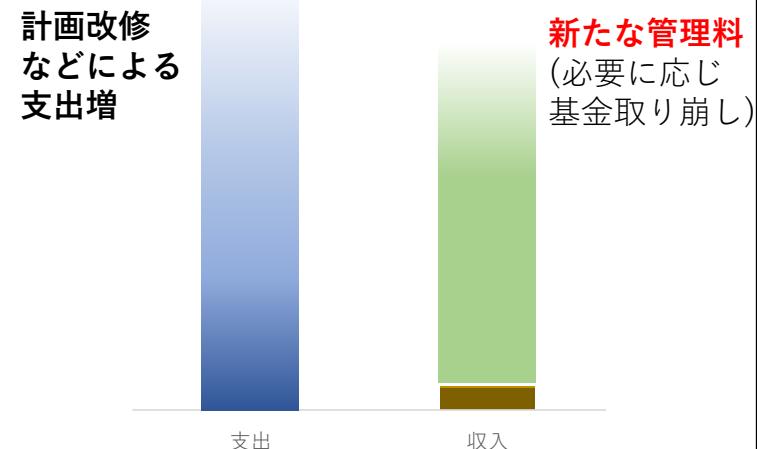
7. 新たな霊園管理制度(収支イメージ)



【現状（R6年度予算）】



【今後】



7. 新たな霊園管理制度(今後の方向性)



今後の方向性

市営霊園を計画的に改修し、安全快適に墓参できる環境を整えていきます。このため、計画改修も含めた運営費用を使用者のみなさま※にご負担いただくことを検討しております。

※新規及び使用開始から20年以上経過した使用者



7. 新たな霊園管理制度(料金水準)



- 現在の清掃手数料を改め、新たに管理料としての徴収を検討しています。
- 計画改修を含めた費用を使用者のみなさまに負担していただくことを想定しておりますが、極力過度な負担とならないよう、現在の清掃手数料に物件費や人件費高騰分を勘案して、新たな管理料の料金水準を検討します。
- なお、市営霊園は緑地としての役割を持つほか、使用者以外の方の散策の場となっていることなども考慮し、全額受益者負担とはしない方向で検討していきます。

現状の清掃手数料【年換算】
(1,290円/m²)

5,160円 (4m²区画) ~ 20,640円 (16m²区画)
平均約7,700円/区画



7. 新たな靈園管理制度(まとめ)



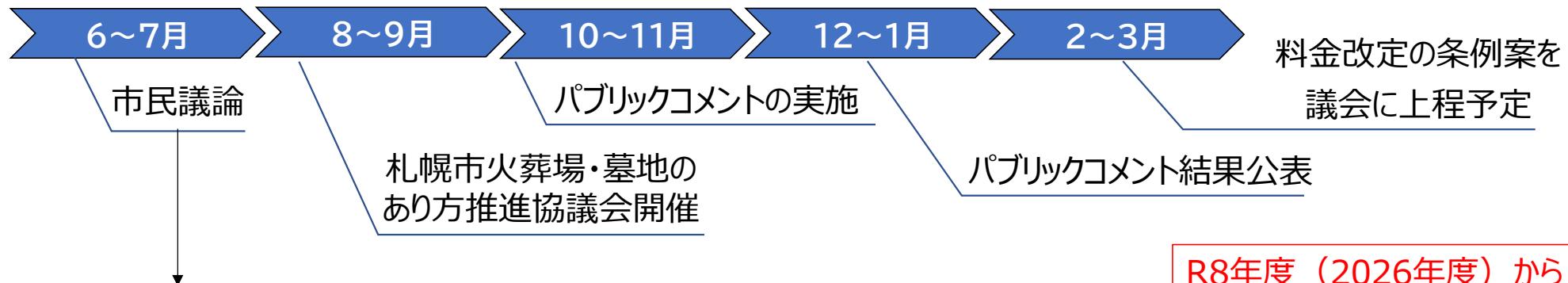
項目	現状の清掃手数料制度	新料金制度（現段階の考え方）
料金水準	25,800円/m ² (20年分)	現在の清掃手数料を目安に検討
徴収頻度	一括徴収	1年ごと
徴収単位	m ² 単位	区画単位
許可取消に係る滞納年数	—	3年程度
減免	減免事例なし	生活困窮者への対応の必要性を検討



8. 今後のスケジュール



R6年度（2024年度）



- 広報さっぽろ 6月号、7月号への記事の掲載
- 市営霊園使用者意見交換会の開催（6月20日（木）・23日（日））
- 葬送と終活を考えるシンポジウムの開催（7月6日（土））
- 葬送と終活を考えるパネル展の開催（7月12日（金）～13日（土））
- ホームページや郵送によるご意見募集（～7月19日（金））

R8年度（2026年度）から
新料金制度を施行することを目指

